

# キタとミナミと英国茶

text by Shinji Ishii  
文いししんじ

二十数年ぶりに会う友だちに、待ち合わせ場所として大阪の北浜を指定された。向こうも証券とは無関係の、三児の母というのに。

京阪電車の駅から地上に上がり、いつてみるとそこに、北浜レトロビルディング、という、重厚かつ軽妙な、ものすごくかっこよいビルが建っている。入り口上空の宙に、巨大なティーポットが斜め加減に浮かぶ。1912、と浮き彫りの字が読める。イングリッシュティー専門店「北浜レトロ」だ。

1912年といえば明治45年、大阪の新世界で、あの通天閣が建った年だ。建設当時はいまみたいなかたちでなく、凱旋門みたいなビルの上にエッフェル塔みたいなタワーをのつけた、珍妙きわまらない建造物だった。別にフランス趣味だったわけでもなく、新世界だからなんでもありだった。いわゆる大阪の「ミナミ」

です。ちょっと緊張しますけど。キタのひとミナミ好きなんです。ちょっと腰ひけますけど。どっちもどっちなんです。だんだん溶けて、両方、移行していったりもするんです。

だから、北浜レトロビルを前に僕は、少し緊張気味ながら、晴れやかな気持ちにもなっていたのだ。ええなあ、キタ。勝手にはいったら怒られそうやけど、ここ、お店やし、待ち合わせもしたあるし。

友だちはすぐにやってきた。いまは天王寺のマンションに住んでいる。わりと本気で仲がいいので、長く会ってなかった感じがぜんぜんしない。相変わらずマンガを読んでいるし、頭の回転がはやい。ふたりとも結婚し、子どもをかわいがっている、そういうところも共通項として、なんだか深く理解し合う要素となりうる。会ってて楽だ。それは互いに大阪っぽいということになるのか。

「むかしっからあんのんかなあ、ここ。家具とか、相当ふるいもんねえ」

「メニユーの革表紙が相当くたくたんになってるやん。古い革靴みたいに。二十年は経ってんちゃうか」

紅茶が運ばれてくる。大阪で、おれらふたりで紅茶か、と笑いながら、このキ

らしい歴史的な風景だ。

北浜はもちろん「キタ」である。キタとミナミの違いは、大阪で生まれ育ったものは理屈でなく肌でわかるのだが、チヨウワかりやすく、目にみえるものでも示すなら、同年に建った「北浜レトロビルディング」と「初代通天閣」の差、だろうか。

北浜レトロだけでなく、キタにはほかにもモダンな大正・昭和建築がいくつも残っている。有名どころだと、中央公会堂、中之島図書館、大阪倶楽部にダイビル。いわゆる背広にネクタイ、ソフト帽。戦後から、平成になってもつづくキタの「かしこ」なイメージはもうこの時代からできあがっている。

いっぽう難波を中心とするミナミは、明治45年の大火で、広大な焼け野原となっている。その焼け跡へ、やはりなんでもありの屋台がならんだ。服装もことばも

タで過ごす時間には、こういう透明な暖色がふさわしい、とおもった。ひさしぶりに会うのにミナミを選んでいたら、よくもわるくも、絵の具ぶちまけて乾杯、みたいな、おやかましい時間が展開されていただろう。何十年ぶりに会う人間の、これまで過ごしてきた年月を、一世紀をこえた建物の時間がつつみこむ。時はまわり、おだやかに引き、また前に進みだす。ひさしぶりの再会にふさわしい場所は、大阪キタのビル街にとどめをさすかもしれない。

サンドイッチが運ばれてくる。皿の上を見た瞬間、紅茶を噴いた。友人はミックスサンド。僕のはBLT

ぐちゃぐちゃで、ほとんどの男たちがフリチンだった(かどうかはさておき)。僕の親しんだ、アメリカ村、の名称は、べつにアメリカを本気でまねたわけではなく、戦後の大阪における「新世界」の現代大阪語訳、だったのだとおもう。

僕はミナミ文化圏で生まれ、高校まで過ごし、卒業後はいったんキタのデザイン事務所まで丁稚として働いた。うまれてはじめて毎朝吸うキタの空気はいがらっぽかったが新鮮だった。新地で飲んでいる社長さんのところへデザイン画を確認してもらいにいったり、そこで「まあ座り、十代でこういうとこ入んのも大事や」といわれ、はじめてシャンパンを飲ましてもらったり。

心情的には南海ホークスファンやけれど、なくなってもうたし、しゃあないから阪急、阪神、みたいな。わからん例えですな。ミナミのひとはキタも好きなん

サンド。丸い皿に、四切れずつ並ぶ。そのひとつひとつが、真っ白いレンガみたいに巨大だ。

「なんやこれ。おれ、急に老眼か？」  
「ねえ、でっかいでしょ。前きたときもぜんぜん食べきれへんかってん」

「イギリス人で、こんなでっかいんやなあ」  
でっかいでっかいいいながら、僕はBLTを平らげ、友人は大阪のひとらしく、ラップに包んでミックスサンドを持ち帰った。



大阪府大阪市

面積: 225.21km<sup>2</sup> (境界未定部分あり)  
総人口: 272万5,006人 (推計人口2018年10月1日)  
人口密度: 1万2,100人/km<sup>2</sup>  
市の木: サクラ  
市の花: パンジー

## Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツエ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない!」「遠い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。

